



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第35号
2011年9月発行・東久留米「九条の会」
代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel.042-473-9489

日本国憲法9条を守り、活かす 東久留米「九条の会」

—学習会—

「原発事故から学ぶ」

前沢・南町9条の会 矢澤健司

3・11の東日本大震災の復興の足を引っ張っている福島原発事故は世界最大の原発事故になりました。原発から230km離れている東久留米にも影響を及ぼしています。

7月17日(日) 1時から南町地区センターで、前沢・南町9条の会主催の「原発事故から私たちが学ぶこと」が開催されました。30名の参加者でしたが、乳児やお子さんといっしょに家族で参加された方もいて、関心の高さがうかがわれました。

前沢在住の加速器物理学者の武藤さんから、原子力発電の原理の説明がありました。ウランU235の核分裂による発熱で水蒸気を作り発電機のタービンを

回して発電する。発電効率は30%(火力発電は40%)。安定して停止しても発熱は続き、冷却が止まると燃料温度はメルトダウンの2500度までは10分で到達します。水素爆発が起こり、放射性物質が拡散した影響について一時間半かけて詳細に学びました。

その後、中央町在住の帝京大学医学部名誉教授塩田俊郎先生から、「放射能汚染は人体にどのように影響を与えるか」話をして頂きました。線量と健康障害の関係、6〜10シーベルトは急性障害・亡くなるケース、5シーベルトは不妊(永久不妊も)、3、4シーベルトは50%が死亡。外部被曝と内部被曝の影響、線量と健康被害の影響、遺伝的影響など説明して頂

きました。

今回の学習会には他地域からも多くの方が参加されたことでも、原発事故への関心の高さが示されました。参加者から次のような感想が寄せられました。

「原発というのは、熱源が違うだけで、火力発電とほぼ同じ仕組みで発電しているものなので、つまり、大きな湯沸かし器みたいなもので、空焚き状態になれば内部が熔け、底が抜けるのはあたりまえの構造。その危険を知らながら3・11以降の原発専門家や政府・東電のあいまいな説明が、いかに市民の安全を二の次にした不誠実なものだったかもわかりました。隠された真実を見抜くには、市民はもつと勉強して怒らなくてはならないのだと思います。」

詳細はホームページをご参照ください。

<http://members.jcom.home.ne.jp/kurumeweb/hmm9jo.html>

—いま生かそう平和憲法—

東久留米「九条の会」6周年のつどい



オカリナ演奏

の中、150人が参加されました。

講師の山田朗教授には、雷と豪雨の中、来館に大変なおもいをさせてしまいました。予定時間に間に合わせていただき本当にたすかりました。また、朗読劇、オカリナ出演のみなさんありがとうございました。

8月7日(日) 東久留米「九条の会」6周年のつどいが開催されました。
当日は、午後3時頃から降り始めた豪雨が開会直前まで続きました。落雷で西武鉄道が不通になり、加えて踏切遮断機が作動しなくなったため、西側からの来館が困難になるなど悪条件



市民による朗読劇 新婦人朗読の会

◆山田朗教授の講演内容

(糸魚川)

新「防衛計画の大綱」の問題点 (民主党)

戦争に反対し、平和を求め

ためには平和について論じるべきで、「戦争や軍事の詳しい知識などは不要ではないか」という人もいます。確かにその点では正しいと思いますが、戦争や軍事について知らないよりは知っていた方が良いことも確かです。なぜなら戦争や軍事力による威圧・威嚇(いかく)で問題を解決しようとするのは、人類の厄介な病気のようなものです。病気を治すため、あるいは病気にかからないためには、病気について正確な知識を持つていた方がよいに決まっています。例えばガンの研究者はガンについてそのメカニズム(成り立ち)と治療法を詳しく研究し、

ガンという病気を克服するため研究しているのだと思います。戦争や軍事(とりわけ軍備拡張)という人類の性(さが)である病気を克服するために、過去の事例について研究するのも同じスタンスです。

そこで戦後日本の防衛計画(1950〜70年代)を見てもみますと、「一次防」から四次防まで(1958〜76年)防衛力の強化プランが作られました。この間に、1950年の警察予備隊から保安隊を経て、1954年の防衛庁設置法により自衛隊が発足しました。

戦後初の国産戦車の登場

陸自では61式戦車が戦後初の国産戦車として、三菱重工によって作られました。61式というのは1961年にできたという意味で、戦後はすべて西暦の末尾を使っています。明治時代は元号を使い38式歩兵銃は明治38

年製ということです。昭和に入るとがらりと変わり、「紀元」の末尾を使います。有名なゼロ戦は1940年、紀元2600年に作られたので零式艦上戦闘機と呼ばれました。海自では対潜水艦戦用国産護衛艦が建造され、軍需産業は陸・海の分野では、戦前のように自前で主力兵器を調達できるレベルまで、早くも復活しました。

米・ソ冷戦からソ連崩壊まで

ソ連が北海道に攻めてくるというまことしやかな情報に惑わされて、1970年に地对空ミサイル「ナイキ」を配備し、ヘリコプター搭載護衛艦「はるな」を建造しました。ヘリを搭載するということは「空母」であるのにあえて護衛艦と言い換えています。その後デタント（緊張緩和）といわれる中、海自は「こんごう」型イージス艦を初めて導入しました。イージス艦とい

うのは一度に10個の敵を打ち落とすミサイルを発射できるほど、コンピュータ化された軍艦です。一隻1400億円ほどします。

海外展開に足を踏み出す

国際貢献という新しい任務を

艦「ひゅうが」（1万3800トン）、おおすみ型輸送艦（8900トン）、さらにいま建造中の「空母型」護衛艦1万9500トンと留まることありません。2005年のドル換算ランキングで日本の軍需力は第4位です。

民主党政権の防衛政策の特徴

政権交替はしましたが防衛政策は基本的に継承しています。異なる点といえば「武器輸出三原則」の撤廃を盛り込まなかったことです。とはいえ対輸出禁止国からアメリカは例外とするというガイドラインもあり、将来自衛隊が米軍に兵器や弾薬を売って商売にする時が来るかもしれない。

日本のこれから・

市民としてできること

「武器輸出三原則」のさらなる骨抜きは、憲法9条の原則を

揺るがします。

軍需産業のしたたかさを国民が広く知ること。国が滅びても軍需産業は生き残るのです。戦車・戦艦を製造した三菱重工、中島飛行機は富士重工に名前を変えて生き残っています。同じ敗戦国のドイツでも、装甲車を作っていたメルセデスベンツ、戦車はポルシェ、戦闘車輛はアウディとおなじみの名前が並びます。日本で「空母」を作れば直ちに中国が反応し、それがインド・パキスタン・中東と悪の連鎖が続きます。まやかしの「脅威論」に乗せられないよう、正しい知識を大きく広めていきましょう

◆カンパありがとうございました

「つどい」当日カンパを呼び掛けた際、半分を東日本大震災被災地に救済募金として送ることにしましたので、カンパの半額約2万5千円に世話人からの追加分を足して3万円にし、「福島県9条の会」に救済募金として23日に送付しました。



上乗せして自衛隊の活動範囲が大きく変わりました。そのため大型化が進み、ヘリ搭載護衛

◆山田朗教授講演の感想

講演会の感想をアンケートより抜粋して掲載します。

- ・大本営発表と同じで、兵器の名前付でごまかしている様子が、よくわかった。大本営手法は引き継がれている。
- ・戦後教育を受けた国民も60歳代になりました。現に新「防衛計画大綱」があること自体時代錯誤的に思えるのです。あまりにも軍事的なものに税金を使いすぎて、いまの国民の感情に合いません。戦艦、戦車、戦闘機はなくしたい。訓練訓練で税金を使っていることがよくわかりました。ムダ使いで、子育て手当や教育費を削ること、矛盾している。軍拡でなく、教育費の競争ならいいのに・・・。
- ・憲法9条のある国にどうしてこんなにお金のかかる戦闘機や船があるのか。
- ・防衛費があまりに多すぎる。

◆夏の平和行事

恒例の夏の平和行事が開催されました。

7月16日（20日）スペース105にて、ピースの木主催の「Tシャツ1000人展」と、その



会場での炭田契恵子ライアーミニコンサート。人形劇でつぺん一座公演など盛り沢山でした。8月6日市民プラザホールでは、市民による朗読劇「2011、今回は「レクイエ



市民による朗読劇 in 2011

ム、戦場に趣き、無念の死をとげた人々が遺した手紙や遺書を題材に構成されています。構成・演出の楯岡さんは、私自身60歳を過ぎ、やっと彼らの言葉に向き合うことができるようになったとおっしゃっていました。



楯岡さん

◆お知らせ

内橋克人、大江健三郎、落合恵子、鎌田慧、坂本龍一、澤地久枝、瀬戸内寂聴、辻井喬、鶴見俊輔9氏の呼びかけで、9月19日午後一時から、東京千駄ヶ谷の明治公園で、「さよなら原発5万人集会」が開催されます。

ウェブ署名も行っています。(ホームページからの署名もできます)

ホームページアドレス <http://www.sayonara-nukes.org>

署名用紙はホームページからダウンロードできます。



さよなら原発1000人アクション

《平和を考える本》

『生きて死ぬ智慧』

文・柳澤桂子（小学館）

本書は、生命科学者である筆者が般若心経を現代語訳したもので、「粒子」をキーワードに「空」を解釈した。

“お聞きなさい／あなたも宇宙のなかで／粒子でできています／宇宙のなかの／ほかの粒子と一つづきです／ですから宇宙も「空」です／あなたという実体はないのです／あなたと宇宙は一つです”に始まり、あらゆるものを削り取り、「空」なる智慧を身につけたとき、一切の苦は取りのぞかれると解釈する。筆者は原因不明の病気に三十八年も苦しんできたが、一人の人の命は多くの人の心の中に分配されて存在し、分配された命は分配された人のものである、という信念のもとに、自死を選ぶことはなかった。

読む程に深まる一冊である。

